

春日大社第 60 次式年造替記念  
春日社社司中臣祐範の日記、初の全文翻刻！

【史料纂集古記録編 第 186 回配本】

な か と み す け の り き

# 中臣祐範記 全 3 冊

春日大社 編

中臣祐範記研究会 (大宮守友・川崎佐知子・神津朝夫・千鳥祐兼・幡鎌一弘・松村和歌子) 校訂

2016 年 8 月 20 日刊行

**第 2** 慶長 10 年 (1605) ~ 同 20 年 (1615)

A5 判・上製・函入・284 頁 定価 (本体 15,000 円 + 税) ISBN978-4-8406-5186-8 C3321

既刊：第 1 慶長 3 年 (1598) ~ 同 9 年 (1604)  
314 頁 定価 (本体 15,000 円 + 税) ISBN978-4-8406-5181-3 C3321

- 本記録は、春日社社司中臣祐範の日記で、慶長 3 年 (1598) から元和 9 年 (1623) にいたる計 21 冊が知られており、今回初の全文翻刻として刊行する。
- 日記の記述は詳細で、春日社のみならず、近世初期の大和国における政治経済史の重要史料の一つで、慶長 5 年 9 月関ヶ原の合戦と戦後処理。それに続く大坂冬・夏の陣の記事も詳しい。
- 祐範は、喜多院空実から古今伝授を受けるなど文芸にも秀で、特に連歌を通じて数々の文人達とも交流があった。その日記は、近世初期の文芸研究上で不可欠の史料である。
- 大和国の中世の史料としては、『大乘院寺社雑事記』『経覚私要鈔』『多聞院日記』などが著名であるが、本日記の書かれた時代は、まさにこれに続くものである。

## 【中臣祐範 (1542-1623)】

東地井 (中臣) 祐範は、天文 11 年 (1542) に、東地井祐父 (1514-1599) の子として生まれた。永禄 5 年 (1562) に、21 歳で従五位下・宮内権大輔に任官し、天正 11 年 (1583) に社司として加任預となり、以後、社内で昇進を重ねた。慶長 4 年 (1599) 正月、中臣姓の社家が春日社で就く極官の正預であった父の後を襲い、正預の職に就き死去するまでの 25 年間にわたり春日社の経営を主導する。